

陸路スピルオーバー #1

2024 5/8 (WED) - 2024 6/16 (SUN)
 11:00 - 19:00 (水曜日#20時まで開館
 open until 20:00 on WED)
 火曜休館 入場無料 Closed on TUE, Free Entrance

(5月29日はイベント開催のため18時に閉館します。)

参加作家：林修平、MES、FAQ?

主催：BUG

企画：長谷川新 (インディペンデントキュレーター)

運営：片野可那恵、檜山真有 (BUG)

広報：桑間千里 (BUG)

制作：飯野優美 (BUG)

広報物デザイン：Kai

翻訳：内山もにか、ベン・ケーガン
 (Art Translators Collective)

会場撮影：守屋友樹

広報動画撮影：斎藤玲児

設営：square4 (小滝タケル、石崎朝子、加藤広太、成田輝、開田ひかり、松尾駿太郎、森洋樹)

機材協力：キヤノン株式会社

協力：高見澤峻介、中川一也、山形一生

イベント

・ポソレ会

日時は決まり次第、SNSにてお知らせします
 MES《サルベージ・クラブ》に関連して、ホープフルピッグとBUG Cafe協力のもと、豚の頭蓋骨からとれるスープを使って、メキシコのスープ「ポソレ」を仕込み、参加者に提供します。ポソレを盛り付け、実食しながらお話しする場をつくります。

定員：10名程度

・キュレーターガイドツアー

日時は決まり次第、SNSにてお知らせします

・トークイベント「移動の震えを聴く」

北川真也 (三重大学准教授・『アンチ・ジオポリティクス—資本と国家に抗う移動の地理学』著者)
 ×長谷川新 (本展キュレーター)

日程：2024年5月29日(水) 19:00-

会場：BUG (後日アーカイブ配信予定有り)

予約はこちらから

<https://spillover-20240529.peatix.com/view>



ごあいさつ

株式会社リクルートホールディングスが運営するBUGでは、インディペンデントキュレーターの長谷川新をキュレーターに迎え、2024年5月8日(水)より、「陸路(スピルオーバー #1)」を開催します。

2023年9月にオープンしたBUGは、「この世界に、バグを。」をキーメッセージに、アーティストやアートワーカーが全力で挑戦できる機会と場所を提供することを一つの活動の軸としています。本展では、林修平、MES、FAQ?の3組それぞれが、これまでの実践を引き継ぎながら新たな試みに挑戦しています。展覧会を経験した後では鑑賞者自身が変わってしまいうような、高密度な作品たちを存分にご堪能ください。

本展の開催にあたり、温かいご支援、ご協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。

BUG

スピルオーバー

いわゆる「電波漏れ」を意味するスピルオーバーは、その性質上、本来届けるはずの範囲を越境して、別の土地、地域、国家、人へと電波が届く現象を指す言葉です。行政権力や企業がどれほど労力を費やしても、電波は意に介さず国境を超え、地方区分を逸脱し、「受益者」の範囲を広げ続けます。想定されていなかった情報を受け取ってしまった者たちがこの世界にはそれなりにたくさんいるはず。逆に言えば、「サブスク(定額料金制)」や「地デジ化(アナログ放送の廃止)」といったものは、料金を払った者と払っていない者に選り分け、分割線を明確にし、文化(商品)の受け渡しを厳密に管理するという欲望に他なりません。

この企画は、スピルオーバーという現象をベースにして、継続的に発表を続けていく予定です。「陸路(スピルオーバー #1)」は、その最初の試みとして、アートセンターBUGにおいて、林修平、MES(新井健・谷川果菜絵によるアーティストユニット)、FAQ?(谷川果菜絵・小宮りさ麻吏奈によるプラットフォーム)という、一人・一組・一プラットフォームの実践を展開します。「陸路」は「episode1 陸路」くらいの気持ちでつけています。

MESはこれまでも光や熱を用いた可変的素材によるインスタレーション、パフォーマンス、映像作品を発表してきました。近作《GA-I》においては、資本経済や画一化された循環のなかにも、動物と人間が個別に関わり、その死を弔うという営みを汲み出そうと試みています。今回発表するのも、こうしたMESふたりの継続的な問題意識と実践のなかで制作された作品です。

林修平は、爬虫類や両生類の飼育経験を踏まえ、私たちの身体を取り巻く法律、条例、慣習などの諸規範の矛盾を露呈させる作品を発表してきました。今回は、動物の「駆除」に端を発する言説に関して、デスポイスによるレクチャーパフォーマンス形式の作品を発表しています。

FAQ?は、交換日記を起点として、性や生、抵抗について取り組んできた人々にまつわる上映やトークを行ってきました。今回の展示ではZINE(冊子)をはじめ制作し、販売しています。

展示は、MESと林修平の作品が交互に上映される構成です。また、FAQ?はZINEコーナーも作っています。——というかたちで、作品の紹介は最小限にとどめたいと思います。物理的であるほかない経験を、その身体で感じとっていただきたいです。今日もどこかでスピルオーバーが起きているこの世界で、林修平、MES、FAQ?それぞれの足取りを目撃してもらえたらと思います。

本展キュレーター 長谷川新



林修平
Shuhei Hayashi

1993 年生まれ。愛知県在住。

爬虫類や両生類の飼育経験を基に、身体を取り巻く諸規範の矛盾を露呈させたり、生態系の循環システムに人間を組み込む方法を考えたりしている。2020 年から住所非公開スペース「IN SITU」の運営にも携わっている。

主な展覧会に「D.L.P.」(箔一ビル / 2023)、「神 (analyzer)」(IN SITU / 2023)、「DAZZLER」(京都芸術センター / 2022)、「群馬青年ビエンナーレ 2021」(群馬県立近代美術館 / 2021) など

MES

MES は、彫刻や空間芸術にバックグラウンドを持つ新井健(あらい・たける)と、文芸、演劇にルーツのある谷川果菜絵(たにかわ・かなえ)の二人がインディペンデントに企画・制作するアーティストデュオ。2015 年に東京芸術大学にて結成、東京を拠点に活動する。

現代美術とクラブカルチャーという親しく不可分な領域の境界から都市や社会の変化を見つめ、19 世紀から現在まで通底する社会問題に向き合い制作を重ねている。これまで光や熱の性質を利用したインスタレーションやパフォーマンスを発表、国会議事堂にアプローチした〈DISTANCE OF RESISTANCE 抵抗の距離〉、他者との隔たりを熱の運動で描いていく〈サイ/SA-1〉に見られる、レーザーやサーモグラフィなどのテクノロジーと、蓄光素材や蠟燭、身体とテキストといった可変的な素材を組み合わせたスタイルを特色とする。現在まで、レーザーアニメーションを使用した VJ パフォーマーとしても活躍し、音楽ジャンルを問わずサウンドアーティストやDJ 等とコラボレートし舞台演出を担っている。近年はパーティー「REVOLIC -revolution holic / 革命中毒-」のオーガナイズ実践も行う。

FAQ?

F…figure, feminism, feeling…?

A…art, alternative, affirmative…?

Q…queer, questioning, qualia…?

その周辺、その時の関心や疑問をトピックとした記述を書き綴る、エッセイのようなコラムのような、とりとめもない交換日記から始めるネットワーク。谷川果菜絵 (MES、NEON BOOK CLUB) と小宮りさ麻吏奈の 2 人によって 2021 年に始動。交換日記のほか、イベントや企画なども行う。

作品リスト

MES

サルベージ・クラブ

ラジオドラマ・インスタレーション
2024、21 分

出演：

高橋希望

ティラミス、白木蓮、デイジー、笹百合、山茶花、

チョコレート、雪柳を筆頭に160頭の豚たち

トランスポート：奥祐司、藤田幸司

エンジニア：高見澤峻介

制作協力：ホープフルピッグ

謝辞：

杉浦沙和、杉浦風ノ介、白石駿一、鈴木凱弥 (まるよ食堂)、

高橋万里

かいめんこや、岩寺をはじめ栗駒の皆さん

林修平

D.L.P.(animals)

映像、スクリーン

2024

声・出演：林修平

作曲・撮影・編集：宮崎竜成

ディレクション：林修平／宮崎竜成

技術補助：永田康祐

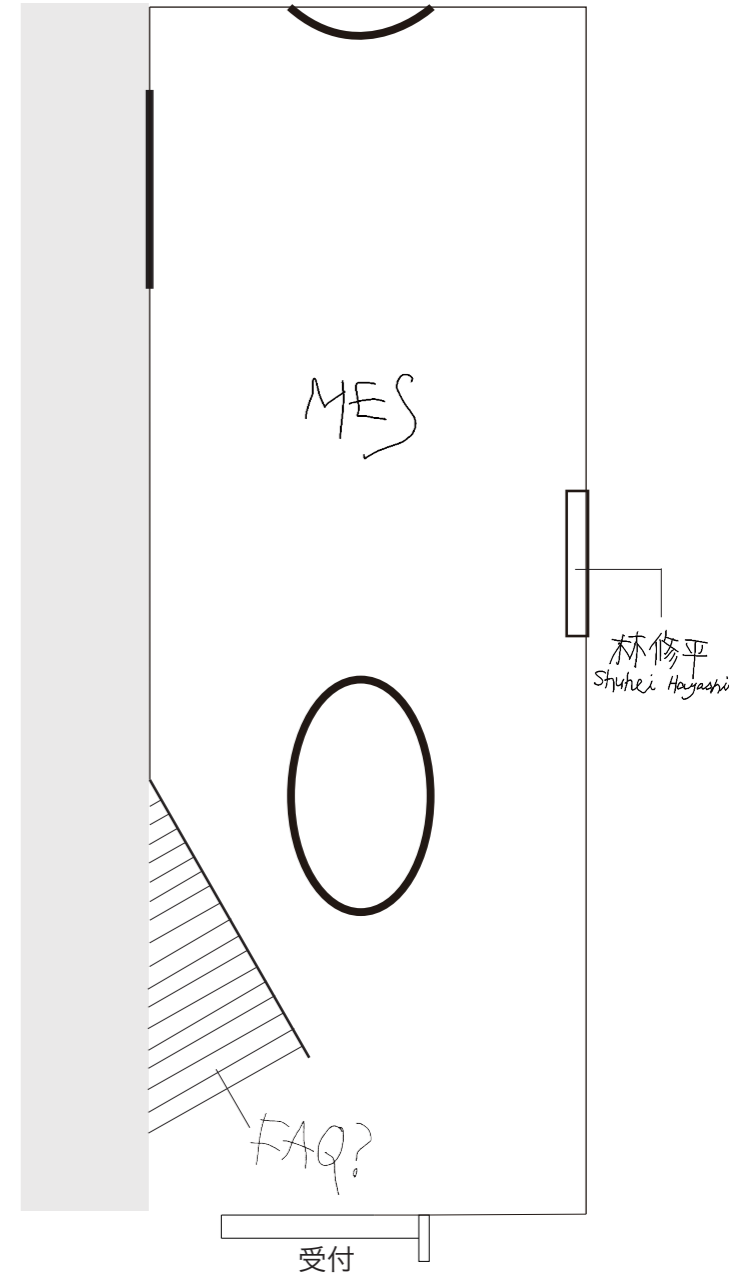
FAQ?

ZINE コーナー

ZINE 「FAQ? exchange journal Vol.1 性、生、そして抵抗」

受付にてお買い求めください

1 冊 1,000 円 (税込)



*作品には、強い光や非常に大きな音が含まれています。耳栓もご用意していますので受付にてお問い合わせください。

*MESの作品には一部震災に関連する描写が含まれています。また、モミガラが飛散するシーンがありますが、人体には影響ありません。

